

今週のメニュー

■トピックス

◇今年も中学生向けの出前授業をスタート

ープラスチック関連団体と協同して、「プラスチックの話し」の理科授業ー

■随想

◇ベナン共和国旅行記（3）ー病院ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇今年も中学生向けの出前授業をスタート

ープラスチック関連団体と協同して、「プラスチックの話し」の理科授業ー

平成24年度から中学校1年生の理科でプラスチック授業が必須になり、全国で新しい教科書に沿った授業が行われています。当協会では次世代育成への貢献の一環として、理科教師向けの参考資料「[調べてわかるプラスチック](#)」（大日本図書出版）を日本プラスチック工業連盟、プラスチック循環利用協会（旧プラスチック処理促進協会）の協力を得て作成し、全国各地の中学校を中心に、「プラスチックの話し」のテーマで、各校のクラスごとに実験も交えて50分前後の一時限講義を行っています。

平成23年度は、高知県清和女子中学校、福岡市立壱岐丘中学校、福岡市立舞鶴中学校、世田谷区立喜多見中学校、犬山市立南部中学校、犬山市立東部中学校、兵庫県立芦屋国際中等教育学校、帝塚山学院高等学校、江田島市立三高中学校、神奈川県立神奈川総合高等学校の10校に出前授業を行い、プラスチックへの関心と理解を深める機会を作りました。

平成24年度は、浜松市立中郡中学校、中野区立第七中学校、中央区立銀座中学校、茅ヶ崎市立梅田中学校の4校（15クラス、460名対象）に出前授業を行っています。

今年度も、これまでの経験を活かして、新学期の授業が落ち着く7月頃から中学校へのお出前授業を始めようとして計画しています。授業内容は、プラスチック全般の基礎的な話しから始めて、身近なプラスチック製品の事例と実物見本を持ち込んで紹介し、生徒たちにプラスチックへの興味を持って頂きます。次に、当協会が準備した汎用プラスチックのシートサンプル(PVC、PE、PP、PS、PETの5種類)を用い、数人のグループに分かれて、密度の違いに着目した実験を行い、プラスチックの特性の違いを理解して頂きます。



出前授業(講義)の様子



出前授業(実験)の様子

最後に、専門家としての経験で、生徒たちが持ってきた身近なプラスチック製品が何かを当てて行くと、驚きに包まれて、和やかに授業が締めくくられます。

この出前授業にかかる費用は、社会貢献の活動として、派遣交通費から教材・講師料まで含めて、すべて当協会の負担で行っています。また、教師はふたりと限定されているため、今年度は10校程度の募集を想定しています。

応募頂く先生方にとって、はじめての出会いで不安を抱かれると考え、事前に事務局への問い合わせと希望をお聞きしてから進めていくことにしています。

是非、「プラスチック出前授業」を受けて見たいと思われる先生は、当協会にお申し出下さい。どのように教えて良いか悩まれている先生方が居られれば、モデル授業の形式で、先生方の研修会などでも活用して頂けます。楽しみにお待ちしております。

連絡先：info@vec.gr.jp

■ 随想

◇ベナン共和国旅行記（3）－病院－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

今日は用事があってコトヌーにあるいくつかの病院に行ってみました。

最初に行ったのは公立病院。白い瀟洒な、いかにも病院といった清潔感あふれるきれいな建物です。ブルキナファソでは公立病院へ行くのは死ぬことと同じと聞いていたので、国によってずいぶん違うものだと思って、入ろうとすると。。

地元の人が「公立病院はそこじゃないよ。隣だよ。そこは私立病院だよ」

隣を見ると、窓ガラスは割れ、雑草が生い茂った廃墟が。よく見ると、ペンキがはげ、さびだらけの看板に、かすかに赤十字のマークが。これって、以前、公立病院だった建物では？でも、建物の中から人の声がします。現在でも利用されている、現役の、公立病院でした (@_@)

中に入ると、ボランティアで教会から来ているシスターだけがきびきびと動いていましたが、ヨレヨレで汚れた白衣を着たドクターは、自らも病人のように、気だるそうに診察をしていました。このドクター、ここの病院の人ではなく、というより、公立病院は給料が非常に安いので手がおらず、大学病院の医師の中からくじ引きで1年間の期限付きで派遣されているそうです（その間、基本的に無給で、生活費は公立病院の診療がないとき、私立病院でアルバイトをして稼ぐそうです）。そりゃあ、やる気もなくなるかな。。

施設を見ると、満足に使えるなのは聴診器と体温計位。包帯等、簡単な治療材料はありますが、内容的には日本の家庭にある救急箱の方がよほど立派です。薬や注射器、検査に必要なキットなどは患者が医師の指示で購入し持参をするのだとか。

取り敢えず、どんな病気が教えてもらう場所というのが公立病院のようです。20mほど離れ、隣同士の公立病院と私立病院。右へ行くか左へ行くかが、人生の本当の分かれ道になりそうです。

次に行ったのはコトヌー国立大学病院。こちらはベナンの最高学府。フランス政府の援助を受けて作られ、日本政府も JICA を通じ、病棟の建設等に協力をしています。ちなみに、一昨年東北震災の際には、この大学病院職員の方々から日本政府に寄付金が送られています。

さすがに、国立大学病院だけあって、普通の公立病院とは比べ物にならないほど設備は充実しています。とはいっても、イメージとしては日本の昭和30年代から40年代の大学病院。現在の日本の大学病院と比較をしようにも、対象にすることすら難しい状況です。

手術室も見せてもらいましたが、ここで手術を受けると、その病気よりも別の感染症のリスクの方が高まるのではないかという状態でした。但し、国立大学病院のドクターは公立病院とはいえ、皆さん、自信を持ち、イキイキ、かつ、てきぱきと診療をされていました。

大学病院の敷地の中には、日中の病室の暑さを避けるため、ほとんどの動ける入院患者や付添、見舞い客が外の木陰や日陰で休んでいます。その中に、箱やお皿を出してお金を恵んでほしいといってくる人たちがいます。大学病院の中に物乞いがいるの？ と不思議に思いましたが、実は、彼らは患者やその家族。通院や入院中にお金が無くなり、病室から追い出された人たちでした。

物乞いで治療費が溜まると、中断していた治療を再開、お金が無くなると、大学病院の敷地内で物乞いをする。この繰り返し。これではよくなる病気も、よくなりません。

この先は、本当かどうか、確認していません。もしかすると、ベナンの噂話かもしれません。

日本にも居ますが、フランスでも実家が医者で、どうしてもその病院を継がなければならない。でも、勉強ができない、という人が居ます。フランスの国立大学、私立大学、どこの医学部にも入学できない。でも、病院を継ぐためには医師の免許が必要。このようなフランス人が、寄付金を支払うことを条件にほとんど無試験でコトヌー国立大学医学部に入学するそうです。

ベナンはフランスの植民地だったこともあり、フランス政府とはいまだに多くの深い関係があります。医師免許についても、ベナンとフランス、どちらで取得した免許であっても、診療、開業等ができるそうです。

実際に学内を歩いていたら、あのフランス人、それで入学した人だよと教えてくれました。もともと、フランス人が入学してくること自体がほとんどない大学なので、かなり目立つ存在です。

教育水準もフランスとは比べ物にならないでしょうし、実習用の設備の種類も新しさも技術も全く違います。余計なお世話かもしれませんが、ベナンで医師免許を取得しても、フランスですぐに開業できるとはとても思えません。医師免許を持っているが診察はしない、病院経営に徹するというのであれば、肩書としてはいいかもしれません。

最後に私立病院です。こちらはピンからキリまで。日本の病院と同じかそれ以上の設備を誇る病院から、公立病院よりちょっとマシという病院まで様々。所謂、高級私立病院はフランス人が経営するものがほとんどで、ドクターもフランス人など外国人の人が多いのが特徴です。

もともと、健康保険制度というものがなかったので、私立病院の治療代は闇の中。逆に言えば、競争も激しいようで、「当院は〇〇の治療で有名な××ドクターが診療します」というような広告も多くみられます。

(つづく)

次回は、(4) -好きと嫌い- です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

先週、関東では例年より早い梅雨入りとのことでしたが、その後は雨の少ない日が続いていました。予想よりも梅雨前線が南下したのが原因のようですが、米に限らず、モモやブドウの生育にも影響するとのこと、農家のみなさんは気のもめることと思います。台風が梅雨を予想どおりに戻してくれるといいですね。日頃土いじりをしていないので、こうした状況にあまり敏感でなく申し訳ないのですが、先週末は雨の心配がないなら自転車で遠出してやろうと終日ポタリング、夏に向け少しづつ健康焼きをつくるつもりが、一気にこんがり焼けてしまいました。(鈴蘭)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp